

## 第 24 回 大庭梨について -松江藩主から徳川將軍家への献上品-



現在の梨木谷(松江市山代町)

史料編纂室で調査した文書群は、市史を記述する際に利用しやすいように「目録」を作り内容がわかるようにしたり、地元に残る地名などを現在の地形と照らし合わせたりします。今回、そういった成果を元としたお話を紹介します。

江戸時代、諸大名が折々の季節に將軍家へ国元の特産品を献上する「時献上」(ときけんじょう)という儀式がありました。松江藩から十六島(うつぶるい)海苔(出雲市十六島町)、鱸島(ともしま)の鰯(ぶり)(出雲市大社町)に並んで、徳川將軍に献上された産物には松江市内で栽培されていた大庭(おおば)梨と呼ばれる梨がありました。出雲の梨は、貝原益軒が、宝永6年(1709)に刊行した『大和本草(やまとほんぞう)』に、実は小さいが味が良く、他国でも栽培するべきだと紹介しています。徳川吉宗が編さんを命じ、元文2年(1737)頃成立した「諸国産物帳」には、出雲で栽培された梨として「大庭梨子」を含め15種類を挙げています。ところが、江戸時代後半の出雲国の名産品を記した「雲陽国益鑑」に梨は取り上げられていません。しかし、江戸時代に大量に印刷された「大名武鑑」には、「大庭梨子」の記載があり、全国的には出雲国の特産として知られていたようです。

さて、「大庭梨子」は、どこで作られていたのでしょうか。「諸国産物帳」では、「大庭梨子」を意宇郡大庭村(松江市大庭町)で産出する梨と説明しています。ここから大庭の地名を取って「大庭梨」と命名されたようです。さらに、大庭村の隣村である山代村(松江市山代町)の地名を記した明治時代の切図(松江市文化財課所蔵)には、茶臼山の北麓の一角に「梨木谷」と見えます。このように大庭周辺では梨にまつわる地名が見られます。このほかに先に述

べた「諸国産物帳」の為に作成されたと考えられる享保 20 年(1735)5 月の「神門郡組下村々産物書出寄帳」(出雲市立図書館所蔵)では、神門郡内で「大庭梨子」を挙げており、大庭以外でも栽培されていました。

松江藩では、徳川将軍以外に梨を誰に贈っていたのでしょうか。松平直政が甥の松平直矩へ梨を贈ったのが松江藩での古い例です。ちなみに天保 9 年(1838)の「大名武鑑」では、8 月の時献上として松江藩主松平齊貴より「真梨子」と「大庭梨子」が将軍家慶へ献上されたことがわかります。このように「大庭梨子」は、出雲国の特産品として徳川将軍家へ献上されていました。

たとえば 19 世紀の尾張藩では、徳川将軍家や御三卿からの養子が度々藩主を継いでおり、「時献上」の際に藩主の出身家である徳川一門へも同様の品を贈答していますので、松江藩でも同様に藩主の縁者へも贈っていたのでしょう。

しかし、献上の品を集めるには並大抵ではない苦労がありました。松江藩の法律をまとめた「国令」に載る元禄 4 年(1691)の法令では、在地の梨が払底したため、大庭梨を所持する者は一にも二にも差し出すように御菓子方役人へ命じています。また、天保年間(1830~43)の「御用留」(池尻家文書: 島根県立図書館所蔵)には、6 月~8 月上旬にかけて藩からの各村々にできるだけ大きな梨を集め、8 月下旬頃に「梨方」という役所へ納めるようにと命令しています。ところが折角収穫した梨の中には、江戸までの輸送中に傷んでしまい別の品を献上せねばならなくなったこともありました。したがって、収穫の際には注意して取り扱うようにとの指示も出されています。

このほかに、献上梨子の数が足りず、傷の付いた梨子であっても提出するように命じたこともありました。松江藩は、島根・意宇郡の他に能義・秋鹿郡へも「大庭梨子」を集めるように指示を出し、実際に秋鹿郡の大垣村(松江市大垣町)から梨が 2 つ献上されています。秋鹿郡での梨の献上から「大庭梨子」が、出雲国北西部(意宇・島根・能義・秋鹿・神門)5 郡で広く植えられていたことがわかります。また、密かに販売することを止めるよう命じているので、出雲の人々もこっそり味わっていたのでしょうか。

大庭の梨栽培について、明治以降も梨が広く栽培され、土地に住む方のお話によると大庭の空山地区周辺では、戦後しばらくの間、梨の栽培が行われていたそうです。



池尻家文書「御用留」(島根県立図書館所蔵)

天保 5 年大垣村の大庭梨の受取書

参考にした史料については、次の書籍にも掲載されています

- ・「雲陽国益鑑」(『松江市史 史料編 5 近世 I』に収録)
- ・「国令」(『松江市史 史料編 6 近世 II』(2013 年刊行予定)に収録予定)

「参考文献」

- ・田籠博、「(翻刻)神門郡組下村々産物書出寄帳」、『島大言語文化』9、2000 年
- ・徳川美術館編、『尾張の殿様物語 尾張徳川家初代義直襲封四〇〇年』、徳川美術館、2007 年

(平成 24 年 10 月 1 日 文化財課史料編纂室 福井将介)